

【件名】

アレルギー性鼻炎の発症診断技術

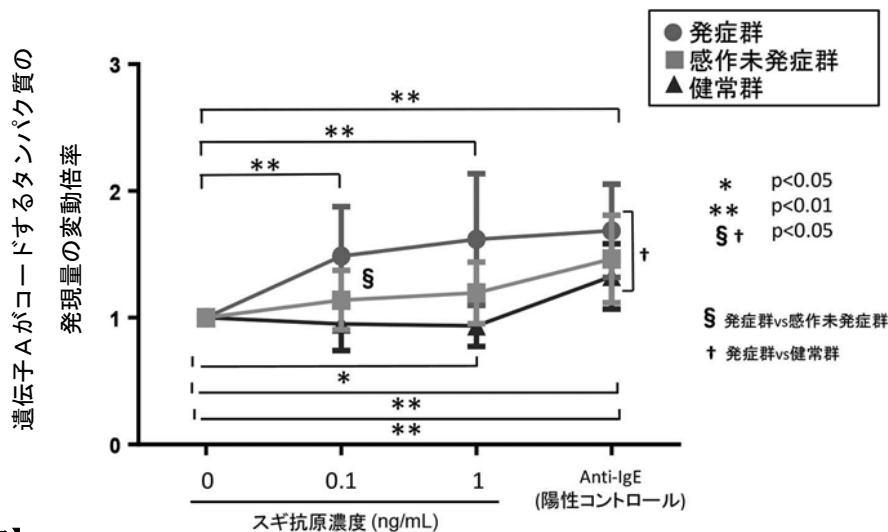
【背景・研究の目的】

アレルギー性鼻炎の症状は、ウイルスや細菌等の感染においても類似の症状がみられること、また、アレルゲンに感作を受けていてもその感作を受けているアレルゲンには発症していない方も少なくない。鼻症状があるが、アレルギー性鼻炎ではない、あるいはアレルギー性鼻炎であっても原因となっているアレルゲンが異なっている可能性がある。そこで実際にアレルギー性鼻炎とその原因アレルゲンを正確に診断して、適した治療をすることが必要である。つまり、有効な治療のためには、感作陰性未発症者、感作陽性未発症者、及び感作陽性発症者を正確に診断することが重要である。

現在、診療の現場では、IgE 測定に加えて、問診・診察、鼻誘発テスト、ヒスタミン遊離試験などを組み合わせて診断しているが、上述の3群を精度高く分類することは困難である。

【研究成果の概要】

アレルギー性鼻炎の感作陰性未発症者、感作陽性未発症者、及び感作陽性発症者から採血された血液中に含まれる遺伝子を解析した。その結果、スギ抗原、あるいはダニで刺激した場合における好塩基球由来の遺伝子Aと遺伝子Bの発現量の変化率に原因アレルゲン特異的に差がみられた。つまり、アレルゲン刺激による発現量変化率を指標として、アレルギー性鼻炎の感作陰性未発症者と、感作陽性未発症及び感作陽性発症者とを分類し、かつ原因アレルゲンを評価できる。



【特許出願状況】

特願 2018-501683

【優位性】

採血による客観的指標で、感作陰性未発症者、感作陽性未発症者、及び感作陽性発症者を診断できる。

【応用例】

アレルギー性鼻炎（花粉症、ダニ通年性アレルギー性鼻炎）発症診断キット

【発明者】

岡本美孝、新井智之

【連絡先】

千葉大学 未来医療教育研究機構

Tel: 043-226-2832 e-mail: mirai-shien@chiba-u.jp